

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【公表番号】特表2008-512390(P2008-512390A)

【公表日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-016

【出願番号】特願2007-530500(P2007-530500)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/085	(2006.01)
A 6 1 K	31/14	(2006.01)
A 6 1 P	31/00	(2006.01)
A 6 1 K	47/12	(2006.01)
A 6 1 K	47/10	(2006.01)
A 6 1 K	47/08	(2006.01)
A 6 1 K	47/14	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)
A 6 1 P	31/10	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	9/107	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
A 6 1 P	27/16	(2006.01)
A 6 1 P	11/02	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 K	47/18	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/085
A 6 1 K	31/14
A 6 1 P	31/00
A 6 1 K	47/12
A 6 1 K	47/10
A 6 1 K	47/08
A 6 1 K	47/14
A 6 1 P	31/12
A 6 1 P	31/10
A 6 1 P	31/04
A 6 1 K	47/34
A 6 1 K	9/107
A 6 1 P	11/00
A 6 1 P	27/16
A 6 1 P	11/02
A 6 1 P	17/00
A 6 1 K	47/18

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月5日(2008.9.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ジフェニルエーテル、フェノール、ハロゲン化フェノール、ビスフェノール、レソルシノールおよびその誘導体、アニリド、ならびにそれらの組合せからなる群より選択される消毒剤、

親水性成分、

界面活性剤、および

疎水性成分、

を含む、哺乳動物の組織の上で、微生物を死滅させるかまたは不活化させるための抗菌組成物であって、患部と少なくとも $10\text{ mg} / \text{cm}^2$ の組織の量で接触される、前記組成物。

【請求項2】

粘膜組織が、鼻腔、前鼻孔または食道腔の少なくとも一部である、請求項1に記載の抗菌組成物。

【請求項3】

ジフェニルエーテル、フェノール、ハロゲン化フェノール、ビスフェノール、レソルシノールおよびその誘導体、アニリド、およびそれらの組合せからなる群より選択される消毒剤、および

アルファ - ヒドロキシ酸、ベータ - ヒドロキシ酸、(C1 ~ C4)アルキルカルボン酸、(C6 ~ C12)アリールカルボン酸、(C6 ~ C12)アラルキルカルボン酸、(C6 ~ C16)アルカリルカルボン酸、フェノール系化合物、(C1 ~ C10)アルキルアルコール、エーテルグリコール、またはそれらの組合せからなる群より選択されるエンハンサーの有効量、

親水性成分、

レシチン以外の界面活性剤、ならびに

疎水性ビヒクル

を含む抗菌組成物であって；

ここで、前記組成物が少なくとも5重量%の水を含み；

ここで、乾燥した皮膚の部位の上でスクラブ・カップ法によって試験をしたときに、前記組成物が6時間内に、ヒトの皮膚上の微生物を1対数減少させる、前記組成物。

【請求項4】

ジフェニルエーテル、フェノール、ハロゲン化フェノール、ビスフェノール、レソルシノールおよびその誘導体、アニリド、およびそれらの組合せからなる群より選択される消毒剤；

有効量のエンハンサー成分；

親水性成分；ならびに

重量で前記組成物の最大部分を占める疎水性成分

を含む、対象の皮膚、粘膜組織、および／または創傷における感染を治療および／または予防するための抗菌組成物であって、前記皮膚、粘膜組織、および／または創傷と、1種または複数の微生物を死滅または不活化させるのに有効な量で接触される、前記組成物。